

北大形成外科

アカデミー

2021.12.11 (sat)

15:15-16:30

京王プラザホテル札幌

Session 1

北成賞2020受賞記念講演

〈若手研究者部門 "La Primavera"〉

伊藤梨里

北成賞2021受賞記念講演

〈臨床研究者部門〉

前田 拓

Session 2

大学院生研究発表

❖血管柄付リンパ節移植モデルにおける悪性黒色腫の動態に関する研究

草島英梨香

❖顔面神経麻痺のラットモデルによる新たな評価法確立に向けて

三浦隆洋

❖リンパ系再構築における大網を用いた新たなマウスモデルの検証

北條正洋

❖マウス後肢リンパ浮腫モデルにおける低酸素ストレス応答の解析

星野善允

❖Negative Pressure Wound Therapy (NPWT)の悪性腫瘍に対する効果の検討

石井浩子

Session 3

特別パネル：第13回日本創傷外科学会総会・学術集会より

「北大形成外科が挑んできたケロイド治療と再発評価法」

前田 拓

「北大形成外科が挑んできた褥瘡再建治療」

石川耕資

代 表： 山本有平

事 務 局： 北海道大学医学部形成外科学教室

〒060-8638 札幌市北区北15条西7丁目

e-mail : info@prs-hokudai.jp

運営委員長： 大澤昌之



PROGRAM

Session 1

北成賞2020受賞記念講演 (15:15~15:29) 7分×2
Moderator : 舟山恵美

〈若手研究者部門 “La Primavera”〉 伊藤梨里

このたびは北成賞若手研究者部門受賞の栄誉に与り、大変うれしく思っております。今回私は、顎頬面領域の比較的稀な先天性疾患において眼球運動障害および鼻部正中の異常骨形成を呈した症例についての一例報告と、上眼瞼全層欠損に対するドナーの犠牲の少ない余剰皮膚を用いた再建方法について報告しました。ご指導頂きました先生方にこの場をお借りして深く感謝申し上げます。

- Ito R, Maeda T, Yamamoto Y, Funayama E, Murao N, Osawa M, Ishikawa K, Ikeda M, Hayashi T: Advancement flap using excess skin for upper eyelid full-thickness defects. *J Craniofac Surg* 30: 2614-2616, 2019
- Ito R, Osawa M, Yamamoto Y, Murao N, Hayashi T, Maeda T, Ishikawa K, Oyama A, Funayama E: Oculo-auriculo-fronto-nasal syndrome with duane retraction syndrome and dysplastic bony structure in the midline of nose. *J Craniofac Surg* 30: e576-e578, 2019

北成賞2021受賞記念講演

〈臨床研究者部門〉 前田 拓

このたび北成賞「臨床研究者部門」の栄誉に与りましたことを大変うれしく思います。昨年publishした英文3編のうちの1編は初回のsubmissionからacceptまで実に4年を要しました。何にしてもこれらの論文執筆は北大形成外科という恵まれた環境の中でなし得たことです。改めて教室を主催されている山本教授と、北大形成外科の教室員の先生方に厚く御礼申し上げます。

- Maeda T, Yamamoto Y, Oyama A, Sasaki S, Hayashi T, Murao N, Osawa M, Funayama E: A comparison of outcomes after palatoplasty in patients with non-syndromic Pierre Robin sequence versus patients with non-syndromic isolated cleft palate. *J Craniofac Surg* 31: 2231-2234, 2020
- Maeda T, Murao N, Hayashi T, Funayama E, Osawa M, Ishikawa K, Yamamoto Y: Application of negative-pressure wound therapy after radical excision of soft tissue malignancy: to obtain a better esthetic result with a less invasive reconstructive technique. *Int J Surg Wound Care* 1: 47-52, 2020
- Maeda T, Yamamoto Y, Murao N, Hayashi T, Kimura C, Matsui S, Saito T, Matsui H, Osawa M, Funayama E: Maggot debridement therapy in critical limb ischaemia: a case study. *J Wound Care* 29: S28-S32, 2020

Session 2

大学院生研究発表 (15:30~16:05) 7分×5
Moderator : 前田 拓

血管柄付リンパ節移植モデルにおける悪性黒色腫の動態に関する研究 草島英梨香

重症リンパ浮腫に対する治療として「血管柄付リンパ節移植」の有用性が近年報告されている。当教室では予てよりリンパ節移植後の循環免疫機能回復に着目し基礎実験を重ねてきた。「血管柄付リンパ節移植は悪性黒色腫の増殖・転移を抑制するか?」をテーマとした研究成果を、大学院生活の振り返りとともに報告する。

顔面神経麻痺のラットモデルによる新たな評価法確立に向けて 三浦隆洋

近年、ラットを用いた顔面神経研究分野においてGapのある神経損傷に対する研究が増加傾向にある。これらの研究は、顔面神経の枝であるBuccal branchとMarginal branchの2本を用いたものが多く、中顔面に特化した評価法が必要である。しかしこれまでに顔面の動きを評価するグローバルスタンダードとなる方法は存在しない。そこで我々は新たな評価法の確立を目指した。本発表ではその詳細について報告する。

リンパ系再構築における大網を用いた新たなマウスモデルの検証

北條正洋

悪性腫瘍に対するリンパ節郭清術の手術後はリンパ系の機能が破綻する。当科ではこれまで破綻したリンパ系の再構築について検証してきたが、リンパ節に変わる新たな移植材料として大網に着目した。マウスモデルを複数作成し比較検証を行っており、その一部を報告する。

マウス後肢リンパ浮腫モデルにおける低酸素ストレス応答の解析

星野善允

低酸素応答因子であるHIF-1 α は、様々な遺伝子、タンパク質の発現に関わる因子として注目されている。我々は、リンパ浮腫モデルにHIF-1 α 活性化薬および阻害薬を作用させ、リンパ浮腫や創傷への影響を検証している。本研究でこれまでに得られた知見について報告する。

Negative Pressure Wound Therapy (NPWT)の悪性腫瘍に対する効果の検討

石井浩子

NPWTは悪性腫瘍がある創傷には禁忌とされており、皮膚悪性腫瘍の切除時においては、病理学的評価が判明するまでNPWTを使用することができないのが現状である。我々は、マウス背部に作成した潰瘍にNPWTを装着するモデルを用いて、実際に悪性腫瘍がある創傷に対してNPWTがどのような影響をもたらすのかを検証している。これまでに得られた知見について報告する。

Session 3

特別パネル：
第13回日本創傷外科学会総会・学術集会より

(16:06~16:30) 12分×2
Moderator : 山本有平

北大形成外科が挑んできたケロイド治療と再発評価法

前田 拓

本講演は、今年度の第13回日本創傷外科学会総会・学術集会のシンポジウム1「ケロイド・瘢痕治療を究める」において発表した内容です。これまで北大形成外科がいかにケロイド・瘢痕治療に取り組んできたかという内容について、最新の知見を加えて発表いたしました。まだまだ若輩者ではございますが、形成外科黎明期から先輩方が取り組んでこられたケロイド・瘢痕治療を後輩に伝え、さらに発展させていきたいと存じます。

北大形成外科が挑んできた褥瘡再建治療

石川耕資

本講演は、シンポジウム2「褥瘡の外科的治療を究める」において発表した内容です。Posterior thigh flap (新富芳尚, 大浦武彦, 1983) に始まる、これまでの北大形成外科における臨床研究・再建症例について報告いたしました。また、1997~2020年の24年間に形成外科専門医試験を受けた教室員64名のうち、10症例に褥瘡が含まれていた56名の褥瘡症例を調査しました。仙骨部褥瘡34例のうち33例が殿部穿通枝筋膜皮弁により、坐骨部褥瘡22例のうち20例がPosterior thigh flapにより再建されていました。北大形成外科が挑んできた褥瘡再建治療を知ることで、今後の発展に繋げていきたいと存じます。